

和歌山への私の提言 ～人がつながるまちづくり～

ファン ティ トゥ フェン
(教育学部 交換留学生) (ベトナム)

私は先進国である日本にあこがれ、日本に留学する夢を持って、三年前から日本語の勉強をしています。日本は先進工業が発達してハイテクが進み、何でも自動化して、ロボットの技術も進歩しているというイメージがありました。そんな日本に留学して日本語を勉強し、いろいろなことを体験したいと思ったのが、日本留学の理由です。

留学の夢がかなって、今年の4月、私は初めて日本に来ました。関西空港に飛行機が到着し、飛行機を降りて、和歌山行きのバスに乗ろうとしました。でも、どうしていいのかわからず、とても困ってしまいました。空港の中で不安そうにうろろしていると、私を見かけた一人の日本人の女の人が心配して「どうしましたか。」と声をかけてくれました。私は、知らない日本人に急に声をかけられて驚きましたが、「ベトナムから留学で和歌山大学に来ました。バスの乗り方が分かりません。」と答えました。そうしたら、彼女は親切に、バスは切符売りの自動販売機で買うことや、バスの乗り方を教えてくれました。私は彼女のおかげで、無事に和歌山へ着くことができました。私は、この日本人の優しい女の人のことを忘れずにずっと覚えていることなのでしょう。彼女はバスが発車した後も、バス停でずっと私を見送っていてくれたのです。日本人って何て優しいんでしょう！

ベトナムでは、自動販売機がありません。バスに乗ると、車内で乗務員に切符を直接購入します。市内での公共交通はバスだけで、料金は市内のどこに行くのでも、日本円で20円ほどです。ハノイなど遠い所に行く場合は列車があります。列車は駅の改札口で駅員に切符を買わなければなりません。しかし、日本は自動販売機で切符を買うことができます。人の代わりに機械が働いていて、バスや電車の中には、運転手以外の乗務員はあまりいません。機械化や自動化は、とても便利で近代的ですが、私のような外国人が日本でどこかへ行こうとしたら、バスや列車の乗り方とか降りる場所など詳しくわかりません。乗務員がいれば聞けるのになあと思いました。

寮に到着した時、夕暮れの空でした。四月の始めの気候は、ちょっと肌寒かったです。寮の私の部屋は十分な設備がありました。机の上には、勉強するための電灯も置いてありました。私は書類を見ようとして、電灯を付けようと思いました。でも、スイッチが分からず、まごまごしてしまいました。スイッチを探そうとして、電灯を上げたり下げたりすると、自動で点灯するようになっている電気は、さっと明るくなったり暗くなったりしました。私はその時なぜか、ちょっと恐怖を感じました。翌日、その電灯が触ると自動で点いたり消えたりすると分かりました。私の国でよく使われている電灯にはスイッチがついていますが、日本の電灯はスイッチがついていなかったのです。

三ヶ月間の留学生活の中で、日本の近代的な技術のすばらしさがわかってきました。例えば、日本の障害者向けの設備です。障害を持つ人々のためには特別なトイレがあり、視覚障害者向けにはオリエンテーション交差点にオーディオシステムがあります。車椅子の利用者向けには、低床バスがあって、車椅子が乗るためにステップ部分が昇降するようになっています。エレベーターの中には、どれも視覚障害者用のフローティングボタンがつ

けられています。障害を持つ人は自分で普通の生活ができるように工夫されています。さすがに日本には最高の設備があり、先進国だと思いました。ベトナムは、まだそういう設備が不十分ですが、その分、人々が協力しています。みんなは体が不自由な人の所に来て、話してあげたり手伝ってあげたりしています。

日本ではどこに行っても、自動照明システム、自動手洗いの蛇口、スーパーの自動支払機、ガソリン売り場、自動発券機、飲み物などの自動販売機、自動タバコ販売機、スーパーなどの入り口にある自動で写真を撮影してくれるコーナー、銀行の現金自動預払機など、どこに行っても自動販売されていて驚きました。アルバイト先も、何でも機械化されています。例えば、ねぎカッター、野菜カッター、肉カッター、混合機、ミキサー、真空機械、食器洗い機・・・すべてのものが、日常的に機械化されています。私は運よく近代技術の進んだ国で、人も優しい和歌山市で勉強し、いろいろな体験もできています。

日本、そして和歌山はすばらしいところだと思いますが、関西空港で親切にしてくださった女性の優しさを思った時、機械だけでは幸せにはなれないのではないかと思います。ベトナムは停電も多く、機械化も進んでいないし、障害を持った人には不便なところかもしれません。しかし、人と人の交わる機械が少なくなれば、優しさもなくなるのではないのでしょうか。和歌山市は自動化された機械をあちこちで見かけますが、人の優しさがたくさん感じられるところだと思います。

大学で和歌山市のまちづくりについて、勉強した時、「もっと若い人向けの遊び場を作ってほしい。」とか、「もっと高いビルを作ってビルの中でいろいろなイベントや遊び、勉強などできればいい。」「駅のそばに噴水を作れば、夏は涼しいので人が集まる。」など、何かを作って人を集める提案が多かったようです。でも、私の考えは少し違いました。

私は和歌山大学に留学して、ボランティアの先生方のお世話になりました。日本語を教えてもらったり、日本文化の体験をさせてもらったりしました。多くのボランティアの方がお世話をしてくださる和歌山大学のようなところは他にはないと思います。和歌山は優しい人がたくさんいます。そんなところが和歌山の魅力だと思います。だから私は、和歌山を優しい気持ちの人が集まるところにしたいと思います。高いビルを建てたり、いろいろ自動化や機械化をしたりして、便利なものを作るより、人と人が触れ合い、体の不自由な人も外国人も、おとなも子どももお年寄りも、みんなが協力して支え合える町をつくれるといいなあと思います。近代的で便利な町をつくるには、まず、たくさんのお金が必要



です。でも、人が優しく暮らせる町を作るのは、お金が第一ではありません。工夫することが大事です。

私のように和歌山に留学して、和歌山の皆さんに親切にしてもらって幸せだと感じている学生がたくさんいますので、その声を日本中、世界中に発信しましょう。「和歌山は優しくて心の温かい人がいっぱいいますよ。」とい



う声が広がっていけば、みんな和歌山へ来たくなると思います。

人が優しくて親切、その上、自然がきれい、みんなが集まって住みやすいまちづくりを考える会を作って実行すれば、日本で一番いいまちになれますよ。みんなで、どんな町をつくりたいか考え、心が豊かになるまちをつくりましょう。